

妊娠前および妊娠中の母体身体活動・睡眠と出生児の1歳における睡眠・発達の問題との関連

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中原, 一成, 諸隈, 誠一, 道川, 武紘, 加藤, 聖子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003976

第 10 回日本 DOHaD 学会

<優秀演題賞候補 1>

妊娠前および妊娠中の母体身体活動・睡眠と出生児の 1 歳における睡眠・発達の問題との関連

1 九州大学大学院 医学研究院 生殖病態生理学、2 九州大学大学院 医学研究院 保健学部門、3 東邦大学医学部 社会医学講座 衛生学分野

中原 一成 1

諸隈 誠一 2 道川 武紘 3 加藤 聖子 1

<背景>近年、身体活動や睡眠などの妊娠中の母体の生活習慣が、児の出生後の発達に影響を与えることが報告されている。また世界的に将来的な妊娠に向けたヘルスケア「プレコンセプションケア」の重要性が叫ばれているが、妊娠前の身体活動や睡眠が児の出生後の発達に与える影響に関する報告はまだ少ない。

<方法・結果>環境省のエコチル調査のデータを用い、妊娠前および妊娠中の母体の身体活動・睡眠と、児の 1 歳時点の睡眠と発達との関連を調べた。参加者 103,062 人の中から、データ欠損症例などを除外し、母体活動量の解析では 76,368 例、母体睡眠の解析では 73,827 例の正常単胎妊娠症例で検討を行った。

①妊娠前・妊娠中の母体活動量と 1 歳児の睡眠・発達の解析

国際標準化身体活動質問票 (IPAQ) を用いて妊娠前・妊娠中の身体活動を推定し、身体活動量に基づいて対象者を 5 群に分けて検討した。妊娠前および妊娠中の母体活動量が最も多い群では、1 歳児の就寝時刻が 22 時以降であることのリスク比 (RR) がコントロール群より低かった (妊娠前: RR=0.91, 妊娠中: RR=0.88)。さらに年齢と発達段階に関する問診票 (ASQ) がカットオフ値未満 (発達に問題がある可能性がある) のリスク比もコントロール群より低かった (妊娠前: RR=0.84, 妊娠中: RR=0.89)。

②妊娠前・妊娠中の母体睡眠と 1 歳児の睡眠・発達の解析

母体の睡眠時間および就寝時刻は妊娠前・妊娠中のいずれの時期でも、児の 1 歳時における睡眠の問題との関連を認めた。例えば、妊娠前の睡眠時間が 7-8 時間の群と比較して 6 時間未満の群では、1 歳時点の 1 時間以上の夜間覚醒 (RR=1.49)、夜間睡眠時間が 8 時間未満 (RR=1.60)、就寝時刻が 22 時以降 (RR=1.33) のリスク比が有意に高かった。一方で母体の睡眠時間および就寝時刻と、ASQ の異常との間には関連を認めなかった。

<結論>母体の妊娠前および妊娠中の身体活動と睡眠は、出生時の 1 歳時における睡眠・発達の問題と関連しうる。